

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：2年

留学先大学：University of Jyväskylä

現在の学期：spring semester

時間割：

曜日	履修科目名・時間等 (春学期前半/後半に分けて記載 下線は独立学習科目)
月	8:15~9:45 Activate Your English : 3 ECTS 10:15~11:45 Survival Finnish : 2 ECTS ----- 14:15~15:45 Family, Care and Social Policy : 5 ECTS
火	<u>Economics of Business Environment (LITO) : 5 ECTS</u> <u>Intersectionality and Critical Theory of Race : 5 ECTS</u> <u>Ethics of Science : 5 ECTS</u>
水	8:15~9:45 Activate Your English : 3 ECTS 10:15~11:45 Survival Finnish : 2 ECTS ----- 10:15~11:45 Environmental Sociology : 5 ECTS
木	12:15~13:45 AI Literacies for Study and Working Life : 3~4 ECTS (プロジェクトの有無により変動) ----- 10:15~11:45 Environmental Sociology : 5 ECTS <u>Economics of Business Environment (LITO) : 5 ECTS</u> <u>Intersectionality and Critical Theory of Race : 5 ECTS</u> <u>Ethics of Science : 5 ECTS</u>
金	8:15~9:45 Survival Finnish : 2 ECTS 10:15~11:45 Activate Your English : 3 ECTS -----
土・日	<u>Economics of Business Environment (LITO) : 5 ECTS</u> <u>Intersectionality and Critical Theory of Race : 5 ECTS</u> <u>Ethics of Science : 5 ECTS</u>

履修科目や近況について

履修計画の全体方針と理由

今回の履修科目は、自身の卒業研究（メジャー・プロジェクト）において、環境問題や持続可能な社会のあり方をテーマに据えることを予定しているため、その基盤となる多角的な知見を養うことを軸に選択しました。国際教養学部での学びを深めるべく、単なる知識の習得に留まらず、社会学、倫理学、政策学といった多層的な視点から「環境と社会」の関わりを批判的に分析する力を養うことが目的です。

また、学外活動として取り組んでいる Google Student AI アンバサダーとしての経験を学術的に裏付けるため、先端技術の倫理的活用に関する科目も重点的に履修することになりました。

履修科目の詳細

- **Environmental Sociology (5 ECTS)** 環境問題や気候変動が社会に与える影響を社会学の観点から学びます。3月下旬から始まる対面授業で、講義のほかにディスカッショングループやクイズ、グループワークが含まれます。
- **Ethics of Science (5 ECTS)** 研究や科学における倫理的問いについて、ビデオ講義の視聴と読解資料に基づき、最終的にエッセイを執筆する個人学習形式の授業です。研究者の社会的責任を批判的に評価する能力を養います。
- **Intersectionality and Critical Theory of Race (5 ECTS)** ジェンダー、人種、階級などの社会的アイデンティティが交差して生じる権力構造について学ぶ個人学習形式の科目です。自身で設定したテーマについて、8~12ページのアカデミックなエッセイを執筆します。レポート執筆のための指定された3冊の文献が英語で書かれており分量も多いため、独立学習の利点を感じるとともに困難を覚えています。
- **Family, Care and Social Policy (5 ECTS)** ヨーロッパ諸国の家族政策や福祉制度を国際比較の視点で学びます。3月中旬より開始され、グループ発表（30%）や最終レポート（50%）が課される実践的な内容です。福祉国家フィンランドの社会政策を直接学べる貴重な機会として選択しました。
- **AI Literacies for Study and Working Life (3-4 ECTS)** AI生成コンテンツを倫理的・効果的に学業や将来のキャリアに活用する方法を習得します。AIアンバサダーとしての活動を英語での学術的実践に繋げることを目的としています。基本的な知識から専門的な内容までカバーされており充実感のある内容です。

- **Economics of Business Environment (LITO) (5 ECTS)** 経済学の基礎概念をビジネス環境に応用する方法を学ぶオンライン科目です。最後にはオンラインでの試験が課されます。千葉大学での前学期の授業「数字と社会」から企業の数字に興味を持ったことがきっかけです。自身の関心領域である投資や金融の知識を理論的に補強するために履修しました。
- **Activate Your English (3 ECTS)** 大学でのディスカッションに必要な実践的な英語スキルを向上させるための対面授業です。他国からの留学生との協働を通じ、英語での発信力を高めます。
- **Survival Finnish (2 ECTS)** 日常生活に必要なフィンランド語を学ぶ初学者向けの科目です。現地での円滑なコミュニケーションと文化理解を目的としています。日常生活であいさつや数字などの言葉を少し聞き取れるようになります。

生活面

住居は、ユヴァスキュラ大学の指定学生寮である「Soihtu」の Kortepohja 地区に滞在しています。到着直後はマイナス 20 度を下回るフィンランド特有の厳冬と、極端に短い日照時間に圧倒されましたが、今ではその環境にも適応し、5km 先のスーパーまで徒歩で買い物に行けるほど寒さに耐性がつきました。こんなにも寒さに順応できるのかと自分でも驚いています。

日用品の調達については、生活の知恵として複数の店舗を使い分けています。まとめ買いや豊富な品揃えが必要な際は少し離れた大型スーパーの「Prisma」へ足を運び、日常の急ぎの用には寮からほど近い「S-market」、少しでもコストを抑えたい時には市内中心部の「Lidl」や「Tokmanni」を利用するなど、現地の物価事情に合わせた工夫を凝らしながら生活を送っています。食料品は野菜や果物は日本と同じくらいの価格で買えるので、すごく助かっています。しかし、お肉や魚などは平均して日本の 2 倍から 3 倍の値段がするのでちょっとしたご褒美の立ち位置です。お昼は学食で栄養バランスよく食べるのが賢い選択だと思います。

寮内には無料のサウナやジムが完備されており、特にジムは毎日のように利用しています。外が深い雪に覆われているフィンランドでは、室内で運動することが一般的な習慣となっているようで、ジムは常に多くの学生で賑わっています。自分にとってはジムが最高の気分転換となっており、心身の健康維持に大きく寄与していると感じています。

留学生活の試練として、1 月中旬に医療機関を受診しなければならないトラブルに見舞われました。しかし、出発前に千葉大学の留学生課から受けていた指導を遵守し、手厚い

海外旅行保険（OSSMA PLUS）に加入していたおかげで、現地の病院への手配や通院も非常にスムーズに運び、滞りなく治療を終えることができました。この経験を通じ、万全な事前準備の重要性と、異国のシステムに冷静に対処する力を養うことができたと感じています。

また、週に 1 回程度はスキーやテニスなどのアクティビティを友人たちと楽しんでいます。ユヴァスキュラ大学は千葉大学からの留学生に非常に人気があるため、現地には同じ大学の仲間も多く、彼らと励まし合いながら生活できる環境は非常に心強いものです。2 月末には ESN という団体が主催するラップランド（Kilpisjärvi）への旅行にも参加します。マイナス 30 度近い大自然の中でハスキーサファリやクロスカントリースキーなどができる予定ですごく楽しみです。こうした学外での豊かな交流や経験は、自身の卒業研究に向けた多くのインスピレーションを与えてくれるだけでなく、多文化共生の実践の場としても非常に有意義なものと考えています

一般的に、留学の意義は語学の習得やその大学特有の専門的な学びに求められがちです。しかし私が今身をもって感じているのは、そうした学術面以上に、日々の生活リズムや食事、あるいは「朝起きても外が真っ暗であること」や「肉や魚がちょっとした贅沢品になる物価感覚」といった、日本での「当たり前」が根底から覆るような環境変化そのものの価値です。これまでの日常から切り離され、全く異なる環境で生きていく中で得られる些細な気づきや新しい感覚のすべてが、自分の人生を豊かにするスパイスになっていると実感しています。単なる「海外という立地的な特異性」以上に、こうした劇的な環境変化に身を置くことこそが、留学の真の意義だと感じています。

2 月も終わりが近づき、残り 3 か月と貴重な日々が過ぎるのは早いものですが 1 日 1 日を大切に、思う存分楽しんで学びの多い留学とします。



北欧式の BBQ



自然豊かな通学路



初めは圧倒されたフィンランド語



自動車の息も真っ白な程寒い



サーモン天国



キシリトール大国 ガム売り場が広い